19世紀後半のヨーロッパの国民統合　（教科書p.〇）

今日の目標：19世紀後半におけるヨーロッパ諸国の国民国家の形成

今日の学習課題：イギリス・フランス・ドイツ・ロシアの国民国家形成の違いを表現しよう。

**〇　イギリス・フランス・ドイツ・ロシアについて、国民国家の形成を整理しよう。**

それぞれの国民国家の形成に関わる歴史的な事象について、**立憲制の確立(議会の有無)や国民の政治参加の度合い(選挙法など)に着目**して、その特色をまとめてみよう。

例：（イタリア）サルデーニャ王国が中心となって、ガリバルディら自由主義者の統一運動もあって、1861年にイタリア王国が成立した。普墺戦争の際にヴェネツィアを、普仏戦争の際に教皇領を併合したが「未回収のイタリア」が残された課題であった。

**①グループでまとめよう。※これまでのワークシートの記述を参考にしよう。**

　グループでまとめたもの

　(イギリス)

(フランス)

(ドイツ)

(ロシア)

**②「わからないこと」や解決できていない「疑問」があれば記入しよう。**

〈新たな問いや疑問〉

**③　単元の学習課題を再検討しよう。※単元の学習課題：１時間目の単元学習進行表の中段で設定しています。**

　次の表に示された問いの形を使って、単元の学びを深める問いを考えてみよう。

|  |  |
| --- | --- |
| もし | ・「もし…でないとしたら、○○にどのような経過をたどるのだろうか」  　例：もし、あなたが民衆であれば、国民意識を高める働きを最も促したと考えら  れる歴史的な事象は何だろう。 |
| そもそも  結局 | ・「結局(そもそも)、〇〇は何であったでのしょうか」  　例：そもそも、列強諸国は立憲制を確立できたか。 |
| どの程度 | ・「…について、〇〇はどの程度影響したのでしょうか」  　例：イタリアとドイツの統一運動にどの程度共通点や相違点を見いだすことがで  きるか。 |
| であるにもかかわらず | ・「…であるにもかかわらず、〇〇であったのはなぜだろうか」  　例：19世紀前半のウィーン体制の頃には大国間の戦争が抑えられていたにもかか  わらず、なぜイギリス・フランスとロシアは大規模な戦争をおこなったのだ  ろう。 |

**④　学びを深める問いについて表現してしよう。**

**※「もし」、「そもそも」、「どの程度」、「であるにもかかわらず」のいずれかを使って問いを考えよう。**

・

　・

**⑤　単元の学習課題を再考して設定しよう。**

**⑥　まとめを記入しよう。**

自分の考えた単元の問いに対するまとめ

振り返りの問い：単元の学びは、あなたにとってどのような価値があるだろうか。

組　　　番　氏名